

多根脳神経リハビリテーション病院

2020 年度年報

目次

病院概要	2
診療部	3
看護部	4
リハビリテーション科	6
医療生活相談室	8
薬剤部	10
栄養科	12
管理部	13
資格一覧	15
学会発表	16

〒552-0011 大阪市港区南市岡 1-1-45

T E L : 06-6585-2743 (代表) F A X : 06-6585-2048

交通：電車 JR 環状線大正駅または地下鉄長堀鶴見緑地線大正駅下車徒歩 10 分

阪神なんば線ドーム前駅下車徒歩 8 分

市バス なんば駅前(60)天保山行、境川下車すぐ

大阪駅前(88)天保山行、境川下車すぐ

淀屋橋駅前(107)弁天町バスターミナル行、境川下車すぐ



【病院概要】

院長	奥田 佳延
開設日	2001 年 (平成 13 年) 6 月
病床数	50 床
標榜科目	脳神経内科・リハビリテーション科・精神科・心療内科・放射線科
"土地・建物 (㎡)	敷地面積 1,578.43 ㎡ 延床面積 3,133.63 ㎡
指定・認定関係	日本眼科医学会専門医制度研修施設
基準関係	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 / データ提出加算 1 / 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) / 運動器リハビリテーション料 (I) / 入院時食事療養 (I)

(2021 年 3 月現在)

当院は回復期病院であり、急性期加療を受けた後の患者さんのリハビリテーションを担っています。対象となる疾患は、脳卒中、脊髄損傷、骨折、変形性関節症の手術後などです。病院名に「脳神経」とあるように、脳卒中などの脳神経系疾患の患者さんが多く入院しています(80%程度)。

当院は、基本的な人員(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士)のみならず、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医、脳神経内科専門医、リハビリテーション認定看護師、呼吸療法認定士、社会福祉士、診療情報管理士、などの有資格者を揃え、各専門職は標準以上の能力を備えていると自負しています。実際に「リハビリテーション病棟入院基本料 I」に必要な数字(重症度の高い患者さんの入院割合: 30%以上、重症度が高かった患者さんの中で大きく改善した割合: 30%以上、自宅に退院できた患者さんの割合: 70%以上、機能改善の目安となる実績指数: 40 以上)を満たしています。また、当院を退院した患者さんのアフタ・ケアとして、必要に応じて、外来や訪問でのリハビリテーションを実施できる体制を整えています。「病院」としての機能は弱い面がありますが、多根総合病院との連携により、患者さんの病状に合わせた対応が可能になっています。傑出した特徴があるわけではありませんが、保険診療の範囲で可能な方法は実施できますので、少なくとも「標準的なリハビリテーション病院」とは言えるでしょう。

今後の高齢化社会では、リハビリテーションの必要性はますます高まると予想されます。当院も、「ヒト」と「モノ」の向上をはかり、「地域包括ケアシステム」の一翼を担うことができるように、病棟内外の機能を高めていきたいと思えます。

◆診療部

【部署概要】

当院はリハビリテーション（リハビリ）病棟のみを有し、脳卒中などの脳神経疾患や大腿骨骨折などの運動器疾患を対象としている。当院の医師の一義的な業務は、患者さんの身体・精神状態を適切に管理し、「集中リハビリが可能」で「集中リハビリの効果が期待できる」状態を維持することにある。その上で、各部署との協同作業により、リハビリの目標設定、入院期間の調整、適切な退院経路の設定、退院後の環境整備などの治療・療養計画の提示等を行い、患者さんの機能改善率や自宅退院率の向上を図っている。

また、診療以外に、医療安全対策や感染対策や防災対策も医局主導で行っている。

【診療・部署体制】

当院に入院する患者は、多根総合病院の脳神経内科・脳神経外科・整形外科からの転院が主体である。他院からの入院については、地域性や専門性を勘案して対応している。医師は、3～4名と少数ではあるが、病棟業務に加え、外来リハビリや訪問リハビリなどの病棟外業務にも取り組んでいる。各医師は、それぞれの専門性を生かして基礎疾患の治療をするとともに、多職種（医師、看護師、療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士）とのカンファレンスを通してリハビリプログラム（目標設定、入院期間、退院経路、社会的環境調整など）の最適化に努めている。

また、学会発表や論文発表を積極的に行うことで、リハビリ医療の発展に貢献するとともに、当院の活動を内外に発信している。

【特色・トピックス】

当院の診療活動は、現時点で、標準的と言える。今後の課題として、「先進的なリハビリ医療（機能的電気刺激、経頭蓋磁気刺激、リハビリロボット、など）の導入」、「外来リハビリや訪問リハビリの拡充」、「適応疾患の拡大」、が挙げられる。

【診療・部署実績】

当院の主たる診療上の目標は、「日常生活動作レベルの改善」と「自宅への退院」にある。当院の入院患者数や外来患者数、病床利用率、リハビリ実績指数、在宅復帰率などを含めた各種指数の詳細は、他部門（看護部、管理部、リハビリ部）の報告に記載されている。結果的に、当院は、『リハビリ病棟入院基本料Ⅰ』に必要な構造指標・過程指標（人員、病棟、リハビリ提供量）と成果指標（入院時重症患者比率、入院時重症患者の回復率、在宅復帰率、リハビリ実績指数）を満たした。

また、2020年度の医局からの学会発表と論文発表は以下の通り。

【学会】第57回日本リハビリテーション学会『回復期リハビリテーション病院における脳内出血と脳梗塞の機能回復』、第61回日本神経学会『病型別にみたリハビリテーション後の脳梗塞の機能回復』、第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会『リハビリテーションの施行時間と脳内出血患者の日常生活動作の改善』

【論文】International Journal of Rehabilitation Research 2020, 43:37-40

◆看護部

【部署概要】

回復期リハビリテーション対象患者に対して他職種と協働し、患者の残された力を最大限に活かし日常生活の援助を通じてADLの改善、社会復帰を目標にしている。

看護師は24時間患者の傍らに在るものとして、病態の観察、再発防止に向けた生活指導を行うと同時に、訓練室で行っている訓練を病棟での生活の中で活かし、患者が習得できるように援助している。そして、患者・家族が安心して社会生活に戻れるように他部門や在宅サポートチームと協働し生活環境の調整と患者自身の身体障害と慢性疾患がもたらす患者の機能的能力とライフスタイルの変化に対処し、生活の再構築と自立に向けて支援している。

【診療・部署体制】

看護部体制

看護部・病棟・外来の3部門

病床数:50床 2フロア1看護単位 13対1看護体制

病棟看護体制：ベアナース受け持ち体制

変則2交替勤務

夜勤勤務員：看護師3名 ナースエイド1名

【特色・トピックス】

1. 回復期リハビリテーション病棟入院基本料1の維持
2. 看護師による各チーム活動の推進
 - 褥瘡・スキントケア予防チーム
 - 転倒・転落予防チーム
 - 排泄自立支援チーム
 - 摂食嚥下機能改善チーム
 - 感染予防チーム
3. 全職員対象の手洗いデモンストレーション
4. 3学会合同呼吸療法認定看護師によるセラピストへの吸引研修
5. アフターコロナ患者の受け入れ
6. 大阪府病院協会看護専門学校への講師派遣

【診療・部署実績】

看護部チーム活動報告

1. 褥瘡・スキントケア予防チーム・・・褥瘡・スキントケア予防マニュアルの作成と全体への浸透活動
年間の褥瘡発生は1件、スキントケアに関する看護職、セラピストへの情報提供の徹底
2. 転倒・転落予防チーム・・・転倒件数46件/年、患者の運動FIMと動作レベルの変化に応じた介助方法の変更や評価が今後の課題
3. 排泄自立支援チーム・・・排泄動作へのセラピストの介入についてのフロー作成途中であるため次年度は完成し、セラピスト共に活用していく
4. 摂食嚥下機能改善チーム・・・患者の嚥下機能の応じた訓練マニュアルの作成、周知を行った。
食事の時の患者のポジショニングや使用道具の選定をセラピストと進めていく
5. 感染予防チーム・・・院内の感染予防運動の啓発活動を行う。特に手指衛生消毒に関して現状把握と啓蒙活動を行った。コロナに関してもまず自らの知識の修得とスタッフへの伝達を行う
6. 災害対策チーム・・・マニュアル完成、適時物品の管理
7. 全体の業務評価・・・表1参照。回復期リハビリテーション病棟入院基本料医は維持できているが平均在院日数が全体的に短縮され、病床利用率の低下につながっている

2020 年度実績

入院患者数	256 人	在宅復帰率	86.90%	退院前カンファレンス	52 件
退院患者数	259 人	新入院患者の重症率	33.30%	入院時訪問指導	2 件
平均入院患者数	45.1 人	日常生活改善率	43.40%	家屋調査	14 件
病床稼働率	90%	FIM 実績指数	42.72		
平均在院日数	58.7 日				

診療科別患者動向

診療科	入院数	発症から入院までの日数	平均在院日数	退院数
脳神経内科	114 人	平均 27 日	平均 63.4 日	122 人
脳外科	73 人	平均 36.4 日	平均 59.8 日	68 人
整形外科	69 人	平均 25.1 日	平均 48.8 日	69 人
合計	256 人	全体平均 29.5 日	全体平均 58.7 日	259 人

◆リハビリテーション科

【部署概要】

急性期治療の後、回復期のセラピーを医師の指示のもとに集中的に実施する事が当科の役割です。対象となる患者さんは、回復期リハビリテーション病棟の適応疾患である脳血管疾患等の神経系疾患、下肢骨折等の運動器疾患の患者さんが中心です。業務内容は、患者さんの基本動作、ADL、コミュニケーション、摂食・嚥下機能、等の改善を図るセラピーを実施することです。医師を中心とした多職種カンファレンスで計画された目標に向かって、それぞれの患者さんに応じた柔軟な対応を心がけています。

【診療・部署体制】

当科では、医学的リハビリテーションの専門分野である、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を実施しています。それぞれ、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）が実施します。これら三部門が、回復期リハビリテーションの大きな目的の一つである自宅復帰・社会復帰に向けて、それぞれの技能を駆使しつつ、医師、看護師、MSW、薬剤師、栄養士、他と協力しながら、効果的なチームアプローチを実践しています。退院後のアフターケアとして、外来リハビリテーション及び、訪問リハビリテーションを実施しています。

【特色・トピックス】

- ・回復期治療が必要な患者さんに対して、各部門の専門性を最大限に発揮した治療業務
- ・回復期病棟アウトカム評価で最上位の成果基準の達成
- ・合同カンファレンスへの参加・準備進行
- ・KHSリハビリテーション科としての関連施設との連携
- ・臨床実習生の受け入れ（大阪保健医療大学、甲南女子大学、大阪医療福祉専門学校）

【診療・部署実績】

【診療・部署実績】

2020年度理学療法（PT）実施患者件数

	入院	外来	合計
4月	1,431	33	1,464
5月	1,399	30	1,429
6月	1,391	40	1,431
7月	1,431	41	1,472
8月	1,458	36	1,494
9月	1,342	35	1,377
10月	1,386	38	1,424
11月	1,289	35	1,324
12月	1,340	33	1,373
1月	1,354	25	1,379
2月	1,322	35	1,357
3月	1,481	39	1,520
合計	16,624	420	17,044

2020年度作業療法（OT）実施患者件数

	入院	外来	合計
4月	1,102	37	1,139
5月	1,091	32	1,123
6月	1,097	40	1,137
7月	1,069	36	1,105
8月	1,095	43	1,138
9月	1,035	34	1,069
10月	992	39	1,031
11月	962	33	995
12月	931	44	975
1月	924	32	956
2月	955	44	999
3月	1,076	54	1,130
合計	12,329	468	12,797

2020年度言語聴覚療法（ST）実施患者件数

	入院	外来	合計
4月	927	33	960
5月	939	34	973
6月	918	30	948
7月	935	29	964
8月	963	29	992
9月	878	31	909
10月	795	31	826
11月	769	37	806
12月	860	42	902
1月	860	43	903
2月	780	54	834
3月	780	71	851
合計	10,404	464	10,868

◆医療生活相談室

【部署概要】

全入院患者ひとりひとりに担当者が付き、患者・家族と入院から退院まで継続的な関係を構築し、必要に応じて援助出来る体制を整えている。また、他院からの入院相談から受け入れまでの一連の連携業務やかかりつけの紹介、退院後受診の予約などの業務も行っている。

【診療・部署体制】

社会福祉士 2 名。入院患者は全担当制。また、入院前、退院後の外来患者も対象とし、相談専門職として関わっている。

【特色・トピックス】

入院相談(系列、他病院)

入院時インテーク(初回)面談

経済問題援助

転院相談(療養型病院、介護老健保健施設など)

転居相談(引越し、特別養護老人ホーム、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅への入居)

退院援助(他機関との連携、退院前カンファレンスや家屋調査の調整)

独居患者の諸対応

リハビリカンファレンス参加

外来患者対応

【診療・部署実績】

コロナ禍による緊急事態宣言下から始まった今年度は、通常業務に加え、院外の窓口となる相談室では柔軟な対応を求められた。

援助内容件数は以下に述べる通りであるが、ケースにかかる調整の多さ、所要する時間に関しては明らかに増加した印象を受けている。

退院支援に関しては、面会禁止による状態把握の困難さが顕著であった。

面会、外出外泊が出来ることで、問題点の発見が明確にでき、本人家族の不安軽減にも繋がること、有効な援助手段であったことを改めて実感した 1 年であった。

病状説明・退院前カンファレンスなど外部との面談に関しては限られた場、人数、時間であり、共通認識をもち情報共有を行うための個別対応の時間が多大であったといえる。

令和 2 年度の相談室の対応件数について報告する。

入院患者のうち 87 件は総合病院相談室からの引き継ぎがあり、入院前から継続的に関わり支援することができた。入院患者の多くは自宅退院であるため、主な業務は他職種、他機関との連携・調整となる。一方で住居環境、介護者の有無、経済状況等の影響で自宅退院が困難な場合には、入所施設や病院等の説明や紹介、調整業務も行っている。

自宅退院が最も多く 161 件、そのうち引越し先への退院が 8 件。

治療目的での急性期病院への転院が 51 件、そのうち多根総合病院への転院が 46 件。

老健への入所が 23 件、療養型病院への転院が 10 件。地域包括ケア病棟への転院が 1 件。

その他特養への入所 1 件、特養ショートステイ利用 3 件、救護施設 1 件。

住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの転居が 8 件。

退院後は当院の外来リハビリへ14件、訪問リハビリへ2件、系列の居宅介護支援事業所へ8件紹介し、退院後も必要に応じて連携を図り継続した支援を行っている。

他院からの入院相談は75件の相談があり、29件受け入れ方向で調整し、そのうち12件受け入れることができた。前年度より他院からの相談件数は少なかったが、約4割を受け入れ方向で調整し積極的な対応ができたかと思う。急性期病院からの相談は他院併行が多く、受け入れ打診するもキャンセルとなることが目立った。

昨年に引き続き、院内スタッフの連携により家屋調査はPT主体で行うことが定着してきたように感じる。院内スタッフ連携による退院支援を行うことにより、相談室として尽力しやすい体制は少しずつ構築出来ている。

次年度に関してはデータベースや記録方法等の業務改善を行い、より良い支援ができるよう日々精進したいと考える。

令和2年度脳神経リハビリテーション病院 医療生活相談室 援助内容実績

(令和2年4月1日～令和3年3月31日に退院された患者。複数回入院している場合は最終退院時に計上。)

	脳神経内科	脳神経外科	整形外科	他病院、自宅	合計
入院相談	0	0	0	20	20
インタビュー	105	44	55	20	224
在宅復帰	75	25	50	12	162
転居	9	9	2	3	23
転院相談	26	11	3	6	46
経済問題	6	2	0	0	8
受診受療	9	4	7	8	28
外出同行	4	5	0	0	9
家屋調査	6	5	2	1	14
退院カンファ	19	8	17	3	47
他機関連携	79	35	43	19	176
介護保険	99	42	50	19	210
障がい福祉	10	3	0	3	16
その他	2	1	0	1	4

◆薬剤部

【部署概要】

- 病院内使用薬剤管理全般（院内処方、持参薬、常備薬）について安全で効果的な使用が出来るよう業務を行っている
- 服薬指導では、自宅へ帰った際に適切に自己服薬管理が出来るよう指導を行っている
- 医療チーム参加と医薬品の安全管理部門として病棟業務を行い、適切な薬物治療が行えるよう関わっていく
- 院内ネットワークを通じて安全性情報、薬剤情報の公開・情報共有を行っている
- コンピュータスキルを生かし、電子カルテシステム・院内ホームページの管理等を行っている
- 処方の代行修正を行っている
- 法人4病院で協力して薬学生実務実習を行っている

【診療・部署体制】

- 薬剤供給
医薬品情報を加味した安全かつ安定的な医薬品供給を提供する
薬剤購入費の圧縮・廃棄薬剤の削減
- 調剤業務
自動錠剤分包機等を使用し院内調剤の一包化を実施している
- 服薬指導
服薬指導の充実をもって患者満足度の向上を図る
具体的には使用薬剤の全般的な管理と電子カルテ情報の有効な使用をめざし、補助ツールの開発と使用手順を確立していく
退院時の薬局サマリー付与
- 投薬管理
副作用発現チェック体制・ハイリスク薬管理体制の強化を行う
- 業務
薬局アクシデント件数を0にするべく業務改善をおこなう
- 情報管理
医療安全の推進・院内感染防止・褥瘡対策について、情報共有・伝達を推進する
(各2回/年)
- 実習生の受け入れ
病院実務実習を通して、薬剤師の確保と指導薬剤師のレベルアップを目的とし、実習受け入れ業務を整備する
- 電子カルテ運用
電子カルテシステムの効率的な使用が出来るよう、補助システムの構築を行う
処方代行入力を行い医師の診療補助を行う

【特色・トピックス】

- 調剤業務：入院内服処方箋枚数 491.9枚/月
- 注射業務：入院患者処方箋枚数 30.7枚/月
- 後発品置き換え率：88.4%（2020/4月～2021/3月）
- 服薬指導：「薬のしおり」「お薬手帳」の活用、持参薬管理、退院時薬局サマリイの発行
- 感染対策：感染レポート作成、抗菌薬使用届管理
- 病棟業務：配薬カート使用・お薬カレンダー使用推奨・段階的的自己管理
持参薬管理（薬局にて管理し、7日分ずつ投薬）
- 薬学実務実習：

- 医療安全：「医薬品・医療機器等安全性情報」「PMDA安全性情報」「医療事故情報
収集事業 医療安全情報」の院内伝達・情報共有
「医薬品・医療機器等安全性情報」N o 372～381
「PMDA安全性情報」臨時1～2、31改、59～60、23改
「医療事故情報収集事業 医療安全情報」N o 161～172
- 電子カルテ：自作プログラム運用・管理（「処方一覧」）
- 医療安全講習会（薬局主催）
 - 2020.6.1 医療安全・感染対策講習会
「新型コロナウイルス感染症・標準予防策」
 - 2020.10.5 医療安全講習会
「医療安全について・防災マニュアル」
 - 2020.11.2 医療安全・感染対策講習会
「感染対策 インフルエンザ・ノロ・新型コロナ」

【診療・部署実績】

処方箋枚数・調剤件数						
	入院内服処方箋			入院注射 枚数	外来注射 枚数	外来処方箋 枚数
	枚数	件数	剤数			
2020年4月	492	1451	1723	30	4	29
5月	406	1137	1373	43	2	25
6月	436	1243	1471	48	4	27
7月	502	1428	1662	22	3	29
8月	450	1269	1492	33	5	31
9月	465	1191	1427	13	4	30
10月	474	1337	1592	45	5	39
11月	518	1271	1526	35	2	28
12月	550	1267	1613	25	5	39
2021年1月	488	1223	1507	25	3	29
2月	516	1315	1572	25	2	37
3月	606	1642	1911	24	7	32
合計	5903	15774	18869	368	46	375
月平均	491.9	1314.5	1572.4	30.7	3.8	31.3

薬剤管理指導

	服薬指導人数	服薬指導件数	カンファレンス記録	代行修正
2020年4月	40	84	67	11
5月	30	55	66	11
6月	36	86	56	5
7月	37	79	71	13
8月	27	59	67	7
9月	29	54	64	17
10月	39	82	69	9
11月	36	56	65	10
12月	33	70	71	14
2021年1月	32	66	74	13
2月	35	59	60	15
3月	43	78	70	15
合計	417	828	800	140
月平均	34.8	69.0	66.7	11.7

◆栄養科

【部署概要】

栄養管理、栄養計画書の作成、献立確認、栄養指導、栄養相談の実施。給食管理は日清医療食品と共同して季節ごとに7週サイクルメニューを提供。咀嚼・嚥下機能に適した食形態、アレルギーや嗜好など個別対応にも応じている。

【診療・部署体制】

管理栄養士 1名

給食業務は日清医療食品に委託（日清側栄養士 1名、調理師 2名、調理員 4名）

【特色・トピックス】

- ・栄養管理業務
 - 栄養指導・栄養相談の実施
 - スクリーニング、栄養管理計画書、モニタリングの定期的な繰り返し
 - NST対象患者の抽出（月1回）
- ・給食管理業務
 - 行事食の実施（月1-3回）
 - 嗜好調査の実施（年2回）
- ・給食委員会、NST会議の開催
- ・カンファレンス、各委員会への参加
- ・院内食事規約の改訂

【診療・部署実績】

《月別食事提供数》												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	3319	3336	3106	3422	3441	3174	3420	3185	2819	2864	2987	3274
特別食	786	622	602	283	297	366	357	390	625	614	615	824
経管栄養	158	263	386	513	542	406	264	259	510	530	302	266
合計	4263	4221	4094	4218	4280	3946	4041	3834	3954	4008	3904	4364

《行事食》		
4月	春の季節献立	五目ちらし寿司・酢味噌和え・吸い物・ミルクレープ
5月	こどもの日	五目ちらし寿司・酢味噌和え・吸い物・こいのぼり生菓子
6月	開院記念日	いなり寿司・鰻入り太巻き寿司・酢味噌和え・吸い物・ゴールドキウイ
7月	七夕	枝豆ご飯・天の川そうめん・炒り鶏・スイカ
	土用の丑	うな重・酢味噌和え・赤だし・スイカ
8月	お盆	穴子ちらし寿司・辛子酢味噌和え・吸い物・水羊羹ゼリー
9月	敬老の日	鮭といくらのちらし寿司・ピーナッツバター和え・赤だし・水羊羹
	十五夜	お月見饅頭
10月	秋の実り	栗ご飯・秋刀魚の塩焼き・しぎ煮・のっぺい汁
11月	七五三	鮭といくらのちらし寿司・ボン酢和え・赤だし・リンゴきんとん
12月	クリスマス	焼きたてパン2種・クリームシチュー・コールスローサラダ・チョコムース
	冬至	南瓜のいとこ煮
	大晦日	年越しそば
1月	元旦	おせち料理
	七草	七草粥
2月	節分	助六(いなり寿司・巻き寿司)・酢味噌和え・けんちん汁・節分豆
3月	ひな祭り	ひなちらし寿司・辛子酢味噌和え・吸い物・ひな饅頭

◆管理部

【部署概要】

管理部は、窓口業務、請求業務、収支・未収金管理、予算立案などの事務部門及び設備管理、防火・防災管理、業務委託管理などの施設部門を担当している。

施設基準の正確な把握、適正な維持。診療報酬、介護報酬をより理解し、正確で迅速な請求業務を行い、請求漏れのないよう注意している。

【診療・部署体制】

主な業務

外来入院業務(受付・会計・コンピューター入力・レセプト業務・請求書作成・電話交換業務)

訪問リハビリ業務(指示書依頼・レセプト業務・請求書作成)

各種委員会開催、立入検査対策、施設基準遵守、各部署と連絡調整、苦情処理、消防訓練対応、予算立案達成、

法人内施設との連絡調整、院内各部署との連絡調整、送迎業務、

設備管理(院内掲示物・防災センターと協力して設備機器の管理等)

【特色・トピックス】

- ・満足度調査の実施。
- ・防災対策強化（防災マニュアル作成、非常用発電機給油方法講習会）。
- ・院内研修計画に基づき、「個人情報保護について」「医療ガス安全講習会」研修を行った。
- ・防災計画に基づき、消防訓練を年2回行った。

【診療・部署実績】

脳リハ病院		入院1人1日単価										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2009年度	27,475	26,009	29,845	28,041	26,467	32,017	26,883	27,288	27,718	28,544	28,997	30,696
2010年度	28,847	29,512	28,393	30,455	33,821	29,688	30,659	29,400	31,759	28,300	29,821	28,959
2011年度	32,878	30,214	34,436	35,838	37,173	34,956	36,852	36,508	37,177	35,116	34,891	37,610
2012年度	34,177	38,618	39,981	40,230	41,632	39,842	41,020	40,188	38,401	43,121	40,372	39,482
2013年度	39,404	38,820	39,978	41,340	41,539	41,543	41,499	40,216	41,138	41,980	40,772	40,697
2014年度	42,530	42,890	45,469	44,931	43,092	43,684	44,563	42,762	43,027	42,389	42,356	42,696
2015年度	47,779	43,441	45,437	43,534	44,154	43,468	44,461	43,060	41,737	47,898	45,661	42,687
2016年度	41,544	43,138	43,405	42,283	42,674	43,735	46,220	43,155	45,517	43,231	43,893	44,919
2017年度	41,844	43,235	44,804	45,980	44,153	44,108	44,549	43,483	44,465	44,648	43,521	44,070
2018年度	41,671	47,498	43,971	44,545	43,077	44,253	46,019	43,389	44,864	43,358	44,323	45,133
2019年度	43,201	43,254	45,985	43,570	44,381	43,775	45,027	45,445	44,711	45,674	44,453	48,202
2020年度	44,525	44,899	45,180	43,571	44,143	45,415	46,809	44,932	46,653	43,291	43,527	45,338

脳リハ病院		入院1日あたり患者数										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2009年度	47	49	48	48	48	46	48	48	48	49	48	49
2010年度	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	49	49
2011年度	49	47	49	49	49	50	49	49	49	50	50	50
2012年度	50	50	46	45	46	47	48	49	49	49	46	46
2013年度	46	48	49	48	47	47	46	50	48	48	49	49
2014年度	49	48	47	47	45	48	49	48	48	47	44	44
2015年度	46	48	47	46	49	45	49	47	46	45	49	49
2016年度	46	46	42	45	47	47	46	46	46	47	49	49
2017年度	48	48	47	45	49	47	47	48	47	47	47	47
2018年度	47	46	46	45	46	45	45	45	44	43	44	44
2019年度	47	46	44	48	48	45	45	45	46	45	46	46
2020年度	48	45	46	46	47	44	44	43	43	43	47	47

脳リハ病院		外来1人1日単価										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2009年度	9,943	10,068	10,023	9,729	10,229	10,296	9,870	10,118	9,640	9,660	10,593	10,140
2010年度	10,592	10,829	10,694	10,030	10,220	9,142	9,657	9,672	9,848	9,909	9,942	11,336
2011年度	8,710	7,766	8,449	7,521	6,979	6,945	7,438	6,993	6,538	6,332	6,738	7,121
2012年度	7,776	7,167	7,346	7,212	8,757	8,711	7,881	8,892	6,983	7,733	7,827	7,332
2013年度	10,793	9,540	7,230	9,699	8,028	9,207	8,055	9,559	8,822	10,630	7,661	9,376
2014年度	10,884	7,524	9,553	11,445	9,126	9,842	11,513	10,139	9,072	10,921	9,121	9,886
2015年度	10,014	12,962	10,842	10,231	8,179	10,085	10,940	9,264	10,211	10,502	8,326	9,558
2016年度	10,537	9,142	11,473	10,512	10,542	10,908	8,990	8,305	10,576	9,206	8,684	10,138
2017年度	11,425	8,350	9,014	11,694	9,058	8,813	8,472	9,879	9,880	10,257	10,678	10,288
2018年度	8,734	10,221	12,128	9,454	10,047	15,028	11,298	10,475	10,376	10,508	11,396	11,316
2019年度	13,451	9,432	11,128	13,865	8,545	10,967	13,356	8,820	10,911	12,207	11,486	11,343
2020年度	11,096	12,301	13,059	11,304	12,014	13,505	10,694	9,282	15,363	10,991	7,384	14,663

脳リハ病院		外来1日あたり患者数										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2009年度	39	37	40	41	37	39	40	40	42	43	42	45
2010年度	50	44	44	42	40	44	42	44	42	42	40	5
2011年度	5	5	6	5	6	6	5	5	5	4	5	5
2012年度	4	4	4	3	3	3	2	3	3	2	4	4
2013年度	5	7	5	7	6	7	7	6	7	7	7	7
2014年度	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4	5
2015年度	6	5	6	5	6	5	5	6	5	7	6	6
2016年度	7	8	6	8	5	7	10	8	7	8	6	6
2017年度	5	5	4	4	5	5	5	6	5	4	4	6
2018年度	7	5	4	5	3	3	4	4	5	5	5	4
2019年度	5	5	5	5	5	5	6	5	5	6	6	5
2020年度	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	7	7

脳リハ病院		訪問リハビリ(介護)1人1日単価										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	7,593	7,042	6,604	6,721	6,833	7,289	6,780	6,831	6,905	7,008	6,630	6,733
2019年度	6,820	6,891	6,648	6,264	7,117	6,640	6,796	7,148	6,978	6,834	6,691	6,603
2020年度	6,757	6,685	6,487	6,818	6,664	6,637	6,710	7,004	7,039	7,111	6,911	6,482

脳リハ病院		訪問リハビリ(介護)1日あたり患者数										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2018年度	3	3	3	2	3	3	3	4	4	4	4	4
2019年度	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3
2020年度	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4

【学会発表】

【学会発表】	施設：多根脳神経リハビリテーション病院	部署：看護部
会名称	第13回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	
発表テーマ	褥瘡管理における特定看護師と回復期リハビリテーション病院との連携と効果	
日時	2020年2月29日	発表者
場所	大阪国際交流センター	川崎 いづみ